

令和3年度 第2回弘前市廃棄物減量等推進審議会会議要旨

- 日 時 令和3年11月24日（水）13時30分～15時30分
- 場 所 弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
- 出席者 阿保委員、安東委員、飯田委員、石田委員、石塚委員、太田委員、
小田桐委員、加藤委員、佐藤（康）委員、佐藤（八）委員、西村委員、
樋口委員、三橋委員、米谷委員
- 欠席者 なし
（委員14名全員出席）
- 事務局 鎌田副市長、岩崎市民生活部長、福士環境課長、山内環境課長補佐、
佐藤資源循環係長、成田廃棄物政策係長、
三上廃棄物政策係主事、齊藤廃棄物政策係主事

○内 容

1 開 会（進行：山内環境課長補佐）

2 委嘱状交付式

⇒副市長が交付し、計14名が審議会の委員に任命された。

3 副市長挨拶

4 組織会

⇒会長として樋口委員が、会長職務代理者として阿保委員が決定した。

5 会議（進行：樋口会長）

（1）【案件1】弘前市のごみの現状と市の施策について

⇒【資料1】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

・ごみ分別ガイドブック配布後の指導などフォローアップも必要ではないか。

→各町会と協力してキャンペーンを実施し、分別指導等を行いながら、不適正排出防止に努めている。

・認知症や統合失調症の方などのごみ分別等の支援は。

→令和2年度から弘前市ごみ出しサポート事業を開始し、ごみ出しや分別ができない方の支援を行っている。

- ・家庭系のごみ、事業系ごみの排出状況の内訳は、何がネックになっているか。
- 市が行っている燃やせるごみの組成分析調査から、家庭系ごみは、生ごみが約4割と多いため、水きりの徹底など生ごみの減量が強化ポイントとなる。事業系ごみは、紙類が約3割と多く、また産業廃棄物に分類されるプラスチックも3割弱含まれているため、オフィス町内会への加入など紙類のリサイクル推進と焼却施設での展開検査や分別不十分なごみの搬入規制等、分別の徹底が強化ポイントとなる。

(2) 【案件2】弘前市食品ロス削減推進計画素案への意見等について

⇒【資料2-1】【資料2-2】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

- ・フードドライブをやりたいが、集めた食品をどこに提供していいかわからないため、必要としている団体との結びつきを手助けしてもらいたい。
- 食品を提供したい方、必要としている方、フードバンク活動を行っている団体を上手くマッチングする仕組みを構築していきたい。
- ・家庭系の未使用食品の内訳が、野菜・果物で約7割ということで、いっぱい貰ってしまった時に、それをどう有効活用するのが課題であると思うが、何か取組みの予定はあるのか。
- 食べきれないりんごを集めてシードルに醸造するなど、食品ロスを考えるきっかけ作りになるような事業ができないか、検討している。

(3) 【案件3】スポGOMI大会in弘前及びイベント等におけるリユース食器活用モデル事業の実施について

⇒【資料3-1】【資料3-2】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

- ・リユース食器は、ごみ減量・脱プラの観点から推奨していくべきと考えるが、課題は。
- 経費面、取り扱う業者が県内にないことなどあるが、環境問題にしっかり向き合っていくことがますます求められていく時代であり、こうした取組みが当たり前になるよう事業者、利用者双方に働きかけていきたい。

6 課長挨拶

7 閉会（進行：山内環境課長補佐）

○資料

- ・【資料1】弘前市のごみの現状と市の施策について

- ・【資料2-1】弘前市食品ロス削減推進計画素案への意見等について
- ・【資料2-2】弘前市食品ロス削減推進計画概要
- ・【資料3-1】令和3年度スポGOMI大会in弘前の開催について
- ・【資料3-2】弘前城菊と紅葉まつりにおけるリユース食器活用モデル事業について
- ・【別 添】「弘前市食品ロス削減推進計画素案（第2次）」
「なごみ生活」（令和3年9月15日発行）

○公開・非公開の区分 「公開」